
真実を知ってください
有機溶剤/吸入ガス
スナッパース
ショット・ザ・ブリーズ
ボッパー
アンパン
メドゥーサ
jp.drugfreeworld.org

この小冊子が制作された理由

薬物についてのさまざまな情報が氾濫しています。学校や街中、インターネットやテレビで。その中には正しい情報もありますが、そうでないものもあります。

薬物に関して耳にするほとんどのことが、実は売人からのものなのです。かつての売人たち曰く、「買わせるためならどんなでたらめでも言う。」

薬物についての実態と真実を知ればまともな決断を下すことができます。この小冊子は、そのために制作されたものです。あなたのために。

あなたのご意見、ご感想は貴重です。ですからこの小冊子について感じたことをお知らせください。**jp.DrugFreeWorld.org** にアクセス、または **info@drugfreeworld.org** までＥメールでご連絡ください。

有機溶剤/吸入ガスとは?

「有機溶剤/吸入ガス」という言葉は、すぐにハイになるために吸入される有毒物質の蒸気を指します。

これらの物質には、溶剤、エアゾールスプレー、ガス、亜硝酸塩(血圧を下げるために使われる処方薬)が含まれます。全国毒物データ・システムによると、現在、約3,400種類の製品が吸入剤として乱用されています。これには、靴磨きクリーム、接着剤、ガソリン、ライター用のオイル、ホイップクリームのエアゾール、亜酸化窒素*(ウィペットや笑気ガスと呼ばれる)、スプレー塗料、修正液、クリーニング液、フェルトペンのインク、塗料用シンナー、その他の塗料用溶剤など、一般家庭や工業製品が含まれます。

ほとんどの吸入剤は麻酔薬のように作用し、体の機能を鈍らせます。最初の高揚感と抑制の低下の後、眠気、めまい、そして興奮状態が起こります。

化学物質は肺を通して血流に吸収され、すばやく脳や他の臓器に到達します。これは時に、取り返しのつかない身体的および精神的な損傷を引き起こすことがあります。

使用者は、揮発する化学物質を直接鼻から吸入したり(スニフィング)、化学物質に浸した布切れから気体を吸い込んだり(ハフィング)して使います。鼻や口に直接物質をスプレーしたり、薬品を襟や袖、カフスにかけて、定期的にそれを吸ったりする人々もいます。紙袋やビニール袋に入れた物質からガスを吸い込む「バギング」という方法もあります。密閉された室内でバギングを行うと、窒息の可能性が非常に高くなります。



* 亜酸化窒素:麻酔剤として使われる、無色で甘いにおいのするガス

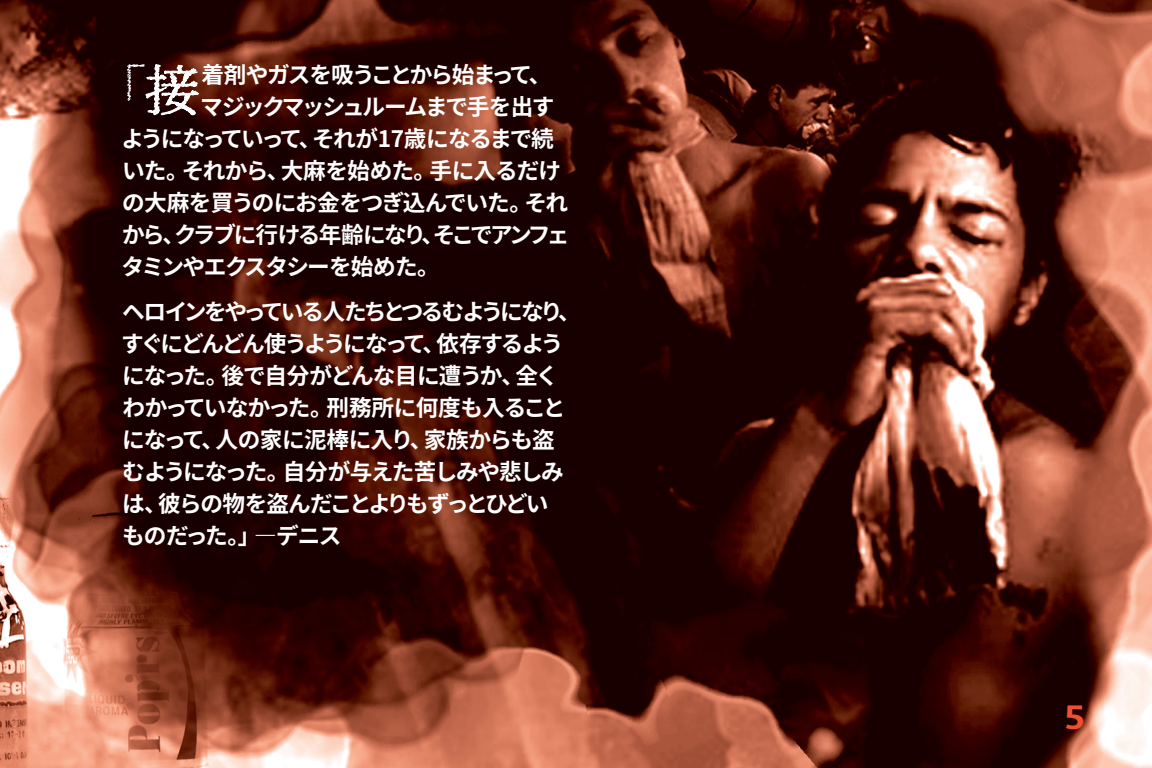
有機溶剤/吸入ガスの通称

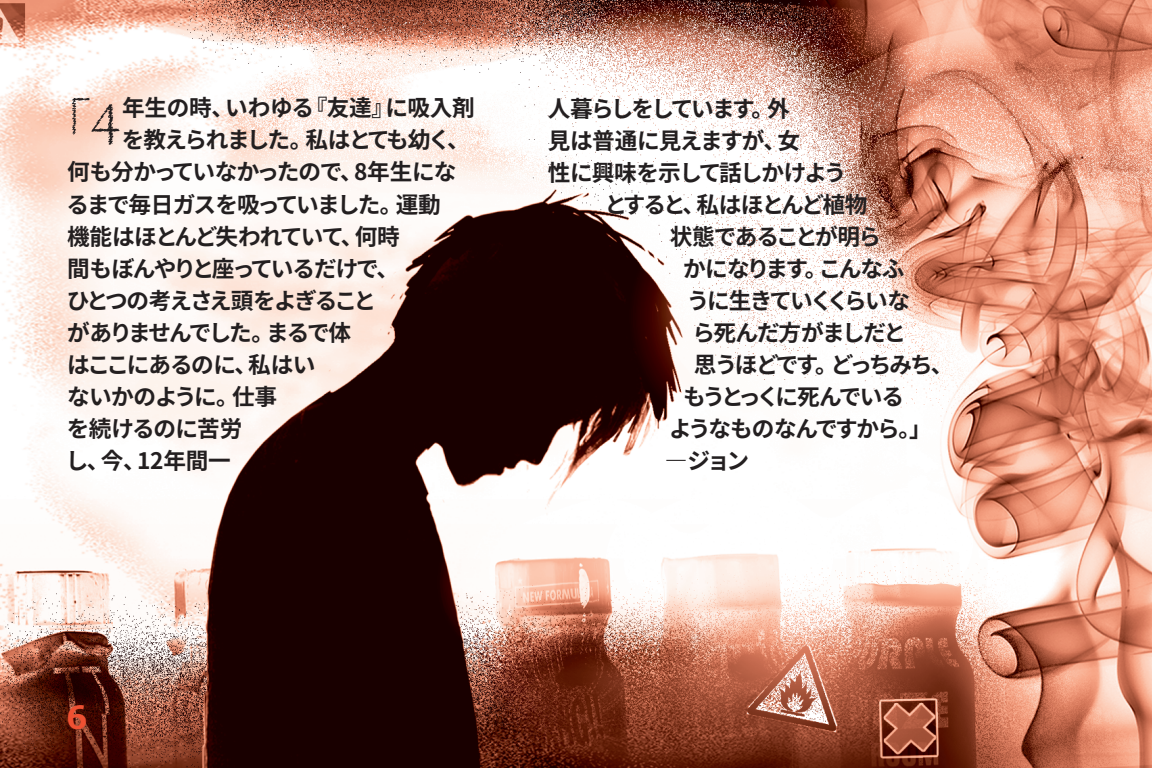
- アンパン
- エームズ
- アミス
- 男のアロマ
- ボルト
- ボッパー
- ブレット
- ブレット・ボルト
- バズ・ボム
- ディスコラマ
- ハードウエア
- ハート・オン
- ハイボール
- ヒッピー・クラック
- ハフ
- 笑気ガス
- ロッカー・ルーム
- メドゥーサ
- ムーン・ガス
- オズ
- パール
- 貧乏人のマリファナ
- ポッパーズ
- クイックシルバー
- ラッシュ
- 悪魔の秘密
- ショット・ザ・ブリーズ
- スナッパーズ
- スノットボール
- スプレー
- テキサス・シューシャイン
- スラスト
- トイレット・ウォーター
- トンチョ
- ボトル入りのバイアグラ
- ホイペット
- ホワイトアウト



「接着剤やガスを吸うことから始まって、マジックマッシュルームまで手を出すようになっていって、それが17歳になるまで続いた。それから、大麻を始めた。手に入るだけの大麻を買うのにお金をつぎ込んでいた。それから、クラブに行ける年齢になり、そこでアンフェタミンやエクスタシーを始めた。

ヘロインをやっている人たちとつるむようになり、すぐにどんどん使うようになって、依存するようになった。後で自分がどんな目に遭うか、全くわかっていなかった。刑務所に何度も入ることになって、人の家に泥棒に入り、家族からも盗むようになった。自分が与えた苦しみや悲しみは、彼らの物を盗んだことよりもずっとひどいものだった。」―デニス





「4年生の時、いわゆる『友達』に吸入剤を教えられました。私はとても幼く、何も分かっていなかったので、8年生になるまで毎日ガスを吸っていました。運動機能はほとんど失われていて、何時間もぼんやりと座っているだけで、ひとつの考えさえ頭をよぎることがありませんでした。まるで体はここにあるのに、私はいないかのように。仕事を続けるのに苦労し、今、12年間一人暮らしをしています。外見は普通に見えますが、女性に興味を示して話しかけようとすると、私はほとんど植物状態であることが明らかになります。こんなふうに生きていくくらいなら死んだ方がましだと思うほどです。どっちみち、もうとっくに死んでいるようなものなんですから。」
―ジョン

有機溶剤/吸引ガスが身体に及ぼす影響

有機溶剤/吸引ガスは、心臓や腎臓、脳、肝臓、骨髄などに障害を与えます。

- ✖ 有機溶剤/吸引ガスによって体内の酸素が欠乏するため、心臓の鼓動が不規則になり、速くなります。それらは、脳細胞だけでなく、神経線維の周りの保護膜を損傷させる可能性があります。
- ✖ 使用者は吐き気、鼻血、聴覚、視覚、嗅覚の喪失を経験することがあります。慢性的な使用は、筋肉の消耗、筋肉の緊張の低下、肺や免疫系の損傷につながる可能性があります。
- ✖ 使用者は、心臓が鼓動を止める、「物質吸入突然死症候群」の危険性があります。これは、初めてのときでも、100回目の時でも起こり得ます。

短期的な影響



ほとんどの有機溶剤/吸引ガスは、神経系に直接作用して、精神に変化をもたらす影響を生じさせます。数秒以内に、使用者は酩酊や、アルコールによるものと似た反応を経験します。使用中または使用直後に経験する可能性のある現象には、以下のようなものがあります。

- ろれつが回らなくなる
- 酔っ払ったような、ふらふらした、ぼんやりした様子
- 混乱
- 吐き気
- 動きを調整する能力の欠如
- 幻覚や妄想
- 判断力の低下
- 無意識
- 激しい頭痛
- 鼻や口の周りの発疹
- 物質吸入突然死症候群（心不全）
- 呼吸困難、発作、昏睡、または異物による窒息死

長期的な影響

常用者は以下を経験しています:

- ✖ 筋肉の衰弱
- ✖ 方向感覚の喪失
- ✖ 筋肉の調整機能の損失
- ✖ 肝臓と腎臓の損傷
- ✖ 脳の損傷（脳組織の喪失）
- ✖ 記憶障害、知能の減退
- ✖ 聴力と視力の損失
- ✖ 骨髄の損傷
- ✖ 心不全や脳への酸素不足による死
- ✖ 血圧の変動によって引き起こされる意識喪失

有機溶剤/吸引ガスの慢性的使用は、数多くの深刻な健康問題と関連しています。接着剤やシンナーの吸引は腎臓に悪影響があります。トルエン*やその他の溶剤を吸引すると、肝臓の損傷を引き起こします。

* トルエン：甘い臭いの強い無色の液体で、一般的に工業用溶剤や燃料として使用される



「明日は息子のジャスティンの6回忌です。彼は16歳でした。彼は、エアーフレッシュナーによって、吸引ガス中毒で死亡しました。彼の無意味な死は、彼を知る全ての人の心を打ち砕きました。ジャスティンは、人生を愛し、情熱を持って人生を受け入れていた優等生でした。彼は、多くの人にとってインスピレーションの源でした。ジャスティンが自分の取っていたものの危険性について知っていたら、今私たちと一緒にいたのだろうかという疑問に、いつも悩まされます。」—ジャッキー

有機溶剤/吸引ガスに依存することはある？

有機溶剤/吸引ガスを使用すると、身体的にも心理的にも依存してしまう可能性があります。使用者は、特に何日も続けて使用した後、有機溶剤/吸引ガスを使い続けたいという強い衝動を報告しています。

有機溶剤/吸引ガスを乱用する人は、耐性がつくことが多く、ハイになるためにより多くの物質を必要とし、過剰摂取の危険性が高まります。

有機溶剤/吸引ガスの常習者がそれをやめると、吐き気、過度の発汗、筋肉のけいれん、頭痛、悪寒、興奮状態、震え、幻覚などの禁断症状に苦しみます。重症の場合、禁断症状はけいれんを引き起こすことがあります。

国際的な統計

有機溶剤/吸引ガスの乱用は、世界中の国々に影響を与えている問題です。

- 米国では、1年間で240万人が何らかの吸入剤を使用しました。現在、米国の8年生の約6パーセントが、吸入剤の使用を報告しています。
- 監察医の報告書に関する調査によると、米国では毎年500件以上の吸入剤による死亡が発生しています。
- 吸入剤の乱用は、イングランドとウェールズの11歳から15歳の年齢層で最も一般的な薬物乱用の形態の1つです。若者の3.5～10パーセントが揮発性溶剤を少なくとも試したことがあり、15,000～30,000人が現在使用していると推定されています。
- イギリスでは、吸入剤に関連する死亡の39パーセントが、被害者の初の試みで起こっています。
- オーストラリアでは、吸入剤の使用者の33パーセントが、他の薬物よりも頻繁に、少なくとも月に1回はこれらの物質を摂取しています。

- さまざまな国の路上で暮らす子どもたちの薬物乱用に関する調査によると、47パーセントが生涯において吸入剤を使用したことがあると分かりました。ケニアの路上で暮らす子どもたちの約58パーセントが、過去1ヵ月間に接着剤を吸引したと報告しています。
- 病院の救急治療室で治療を受けた吸入剤中毒の22,000件以上の症例を対象とした研究では、患者の約10パーセントが集中治療を受け、さらに8パーセントが精神科に紹介されました。
- ヨーロッパの35ヵ国の学生からデータを集めた、アルコールおよびその他の薬物に関するヨーロッパ学校調査プロジェクトによると、7.2パーセントの学生が少なくとも1度は吸入剤を試したことがあることが分かりました。吸入剤を試した学生の割合が最も高かった国は、ラトビア（16パーセント）、ドイツとクロアチア（それぞれ15パーセント）でした。

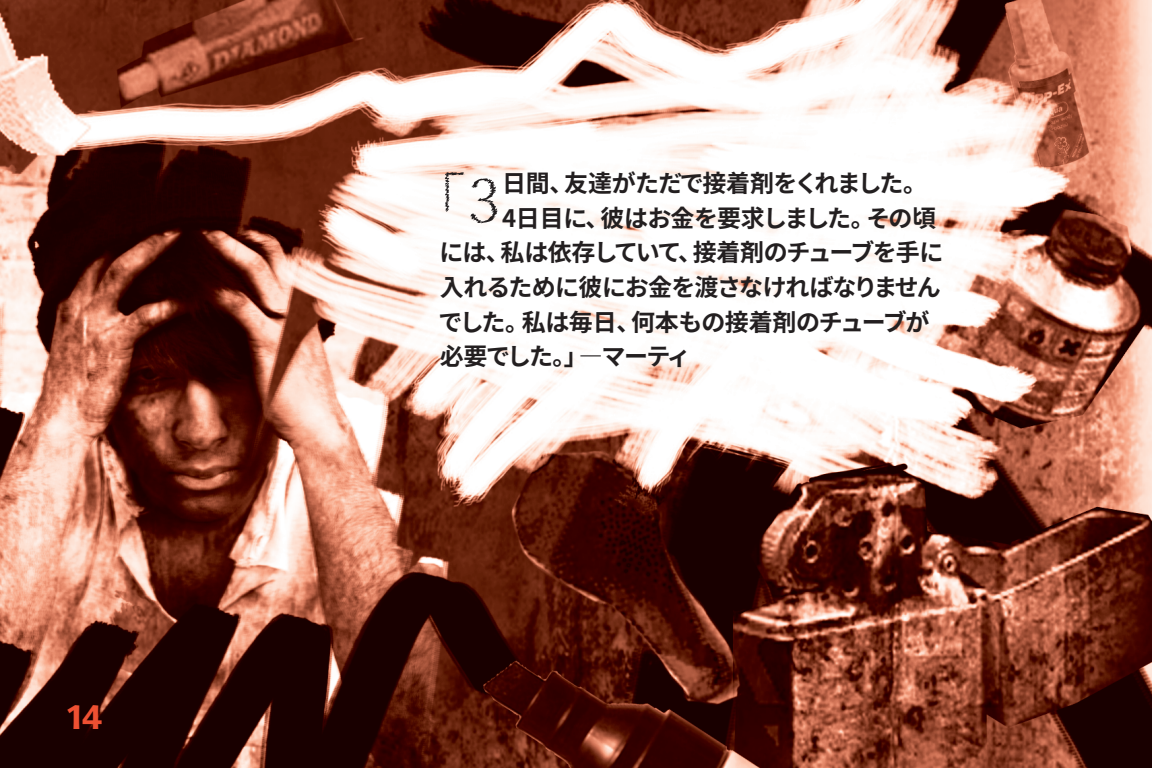
パキスタンのカラチでは、路上で暮らす子どもたちの80～90パーセントが接着剤や溶剤を吸っています。

80-90%

死亡した吸入剤乱用者の22%は、過去に吸入剤を乱用したことがありませんでした。

22%





「3日間、友達がただで接着剤をくれました。4日目に、彼はお金を要求しました。その頃には、私は依存していて、接着剤のチューブを手に入れるために彼にお金を渡さなければなりませんでした。私は毎日、何本もの接着剤のチューブが必要でした。」―マーティ

さまざまな種類の有機溶剤/吸引ガス

有機溶剤/吸引ガスは、4つの異なる種類に分類できます：

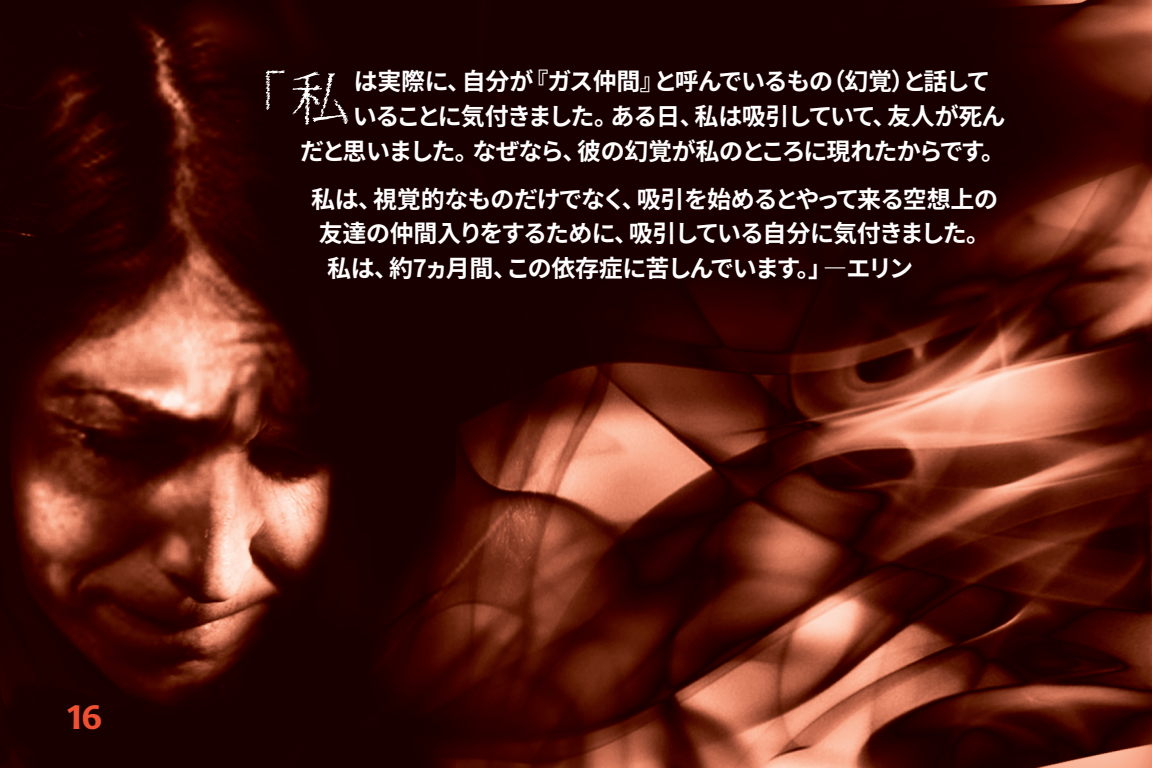
液体 室温で蒸発するもの。これらは、シンナー、脱脂剤、ガソリン、接着剤、修正液、フェルトペンのインクなど、簡単に手に入る家庭用製品や工業製品に見られます。

スプレー スプレー塗料、消臭剤、ヘアスプレー、調理用の植物油スプレー、布地保護スプレーなど。

ガス 医療用麻酔薬（エーテル、クロロホルム、亜酸化窒素、一般に「笑気ガス」と呼ばれるもの）、ブタンライター、プロパンボンベ、ホイップクリーム用ディスペンサー、冷媒など。

亜硝酸塩 食品保存料、革クリーナー、室内消臭剤などに含まれる化学化合物。主に性欲増進剤として使用され、一般的に「ポッパー」や「スナッパー」として知られています。





「私は実際に、自分が『ガス仲間』と呼んでいるもの（幻覚）と話していることに気付きました。ある日、私は吸引していて、友人が死んだと思いました。なぜなら、彼の幻覚が私のところに現れたからです。

私は、視覚的なものだけでなく、吸引を始めるとやって来る空想上の友達の仲間入りをするために、吸引している自分に気付きました。私は、約7ヵ月間、この依存症に苦しんでいます。」―エリン

有機溶剤/吸入ガスは合法？

吸入剤は規制物質法の下で規制されていませんが、米国の10以上の州では、有機溶剤/吸入ガスとして一般的に乱用されている特定の製品の未成年者への販売と流通に制限を設けています。一部の州では、吸入剤の化学物質の販売、流通、使用、および/または所持に対して罰金、投獄、または強制的な治療を導入しています。

また、米国の一部の州には、亜酸化窒素（笑気ガス）を娯楽目的で吸入することを禁止する法律もあります。

西オーストラリア州、南オーストラリア州、ビクトリア州、クイーンズランド州、ノーザンテリトリーでは、販売者が吸引目的で使用されると考える製品を誰かに販売することを犯罪とする法律が可決されています。警察は、吸引剤を所持していると合理的に考えられる人を捜索し、それを押収することが認められています。

イングランドとウェールズでは、吸引や酩酊を目的に使用される可能性があると判断される場合、小売業者が揮発性物質を販売することは違法です。

有機溶剤/吸引ガス：



エジプト、バビロニア（現在のイラク）、インド、中国の古代文化では、意識を変化させたり、宗教儀式の一環として蒸気が用いられていました。

一部の研究者によると、デルフィ（古代ギリシャの都市）にあるアポロン神殿*の巫女たちは、儀式中に意識の状態を変えるためにガスの蒸気を吸い込んでいたと考えられています。

1800年代初頭には、亜酸化窒素、エーテル、クロロホルムといった一般的に使用されていた麻酔薬が、酩酊薬として使用されていました。

亜酸化窒素は、安価なアルコールの代用品と見なされ、イギリスの科学者サー・ハンフリー・デービーによって広められました。彼は亜酸化窒素のパーティーを開き、1799年に「笑気ガス」という言葉を作りました。麻酔効果に気づいたデービーは、このガスを手術に使えるのではないかと提案しましたが、実際に試されるまでにはさらに半世紀を要しました。

娯楽目的での麻酔薬の使用は、19世紀を通じてヨーロッパとアメリカで続きました。

* ギリシャ人は、アポロ神が古代の神殿であるアポロ神殿で、巫女を通して予言を伝えたと信じていました。

簡略史



サー・
ハンフリー・デービー

1920年代には、エーテルがアルコールの代用品となり、米国の禁酒法時代には娯楽用の薬物でした。

1940年代には、溶剤の乱用、主にガソリンの吸引が流行し始めました。

米国では、1950年代に吸入剤の乱用が増加し、現在では青少年の間に広まっています。

1960年代までには、塗料やラッカーシンナー、除光液、靴墨、ライター用のオイル、スプレー塗料、接着剤などの製品といった溶剤の吸引が広まりました。

近年では、吸入剤の乱用は、南アジア、メキシコ、東ヨーロッパ、ケニアを含む世界中のホームレスの子どもたちの間で大きな問題となっています。ストリートチルドレンは、飢えや寒さ、絶望の痛みを麻痺させるために、これらの吸入剤を使います。

カナダ、アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、そして一部の太平洋の島々の遠隔地でも、ガスやスプレー塗料の吸引は広く行われています。



真実を知ってください：薬物

薬物は基本的に毒です。その作用は、摂取する量によって決まります。

少し摂取すると、活動をより活発にする中枢神経刺激剤として作用します。多めに摂取すると、活動を抑制する鎮静剤として作用します。さらに多量に摂取すると毒となり命を奪います。

これはどの薬物にも当てはまります。こうした作用を引き起こすのに必要な量が違うだけです。

それだけではなく、多くの薬物には人のマインドにも影響を及ぼす弊害があります。薬物を取っている人が自分の周囲で起こっていることを知覚しても、それは歪んだものになってしまう可能性があります。その結果、その人の行動は奇妙だったり、不合理であったりするかもしれません。暴力的になることもあるでしょう。

薬物は、全ての感覚を遮断します。望ましい感覚も望ましくない感覚もです。そのため、短期的には痛みを和らげるために役に立ちますが、同時に人の能力や機敏さを消し去り、思考を不明瞭にします。

医薬品は、身体の働きを良くしようとして、何かを速めたり、遅くしたり、身体の働きを変えることを意図した薬物です。時には必要ですが、薬物であることに変わりはありません。中枢神経刺激剤や鎮静剤といった薬物を取り過ぎれば命を落とすこともあります。したがって、医薬品は規定通りに使用されない場合、違法薬物と同様に危険なものになり得ます。


本当の解決策は、
事実を認識し、最初から
薬物など使用しないことです。

なぜ人は薬物を取るのでしょう？

人が薬物を取る理由は、自分の人生を変えたいと思うからです。

若い世代の人たちが薬物を取る理由には、以下のものがあります。

- 周りとうまくやっていきたい。
- 問題から逃避、またはリラックスするため。
- 退屈を紛らわすため。
- 大人になったような気がするから。
- 反抗するため。
- どんなものか試してみたい。

こういった若者は、薬物が問題を解決してくれると思っているのです。しかし、結局のところ薬物は問題にしかなりません。

自分の問題に直面することが困難なこともあるでしょう。しかし、薬物によって解決しようとしている問題よりも、薬物を使用した方が常に悪い結果を招きます。本当の解決策は、事実を認識し、最初から薬物など使用しないことです。



この小冊子を含む薬物防止教育小冊子のシリーズは、これまでに20以上の言語で出版され、世界中で何百万部も配布されてきました。



新しい薬物が次々と世の中に出回っており、その影響に関する新たな情報が知られるようになっています。本シリーズはそうした新しい情報を盛り込んだ最新版です。

これらの小冊子シリーズは、カリフォルニア州ロサンゼルスを拠点とする非営利の公益法人「薬物のない世界のための財団」によって出版されています。

財団は、その国際防止ネットワークを通して各種教育資料や助言を提供したり、調整を行ったりしています。また、青少年や保護者、教育者やボランティア団体、政府機関ばかりではなく、薬物乱用のない人生を送ることに関心のある人なら誰とでも協力しています。

参照文献：

この小冊子をまとめるのに使われた参照文献：jp.DrugFreeWorld.org/refs

写真：4ページ：BigStockPhoto (glue); 7ページ：Thomas Tamm; 8ページ：Chadwick Meyers; 14ページ：iStockphoto; 18ページ：Talaria Enterprises

知っておくべき真実

この小冊子を含む薬物防止教育小冊子のシリーズには、マリファナ、アルコール乱用、フェンタニル、危険ドラッグ、エクスタシー、コカイン、クラック・コカイン、覚せい剤、有機溶剤 / 吸入ガス、ヘロイン、LSD、処方薬乱用についての正確な情報がまとめられており、読者が自分の意志で薬物のない人生を送ることができるように役立つ内容になっています。

無料オンライン・コースを行う、または地域の薬物のない世界支部とつながるには、jp.DrugFreeWorld.org にアクセスしてください

薬物のない世界のための財団

jp.DrugFreeWorld.org • info@drugfreeworld.org

1 (888) 668-6378 • 1 (818) 952-5260

この小冊子をダウンロードするには ここをスキャン

© 2025年 Foundation for a Drug-Free World. 不許複製。Truth About Drugs および薬物のない世界のための財団のロゴは Foundation for a Drug-Free World が所有しており、使用にあたってはその許可が必要です。#S001562 - Japanese